

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

---2023年9月5日・第88号---

<目次>

- 「なくすな保険証」神奈川県連絡会がスタート
- 教員不足の解消を求める請願は継続審議に
- ▲ お知らせコーナー
- ☆9/10 ゆきとどいた教育をすすめる川崎市民の集い
- ☆9/23 ゆめシネマ「オレの記念日」
- ★ 編集後記

●「なくすな保険証」神奈川県連絡会がスタート

ー「なくすな保険証」が秋の市民大運動の大きな柱にー

8月31日、全県をオンラインでつないで、「なくすな！保健証スタートアップ学習集会」が開催されました。

川崎では社保協がかわさきゆめホールを会場にして、全県と連帯する行動を行いました。

<医療現場でのマイナ保険証の実態として、やはり、トラブルが多発>

第1部は、「マイナ保険証一体化の問題点と最近の動き」の報告を県保険医協会事務局次長の知念哲さんが行いました。

保険医協会は、町の開業医師が会員となっている団体です。

神奈川県でも会員は5500名になっています。全国の保健医協会は、医療機関調査を2回実施してその実態をまとめています。

どんなトラブルが起きているか。

その1、マイナ保険証で資格確認した際に、医療保険者資格が「無効・該当なし」と表示される。そのため、窓口で一旦10割負担した事例が、全国で1300件になっている。

その2、マイナ保険証で資格確認した際に、データ上で表示される負担割合と健康保険証の負担割合が異なる。

その原因は複数あると考えられ、これからもトラブルが続くことが予想される。

その3, 医療の窓口業務では、トラブルへの対応、患者への説明、カードリーダーの操作補助など、業務の負担が増加している。

現在、マイナ保険証での受診率は、6%にすぎません。このまま強引に保険証の廃止をすれば、医療現場の混乱、窓口業務の負担増は、たいへんなことになるでしょう。

知念氏の報告は、[県保険医協会のホームページ](#)に掲載されています。

第2部は、「なくすな保険証」神奈川県連絡会の結成集会

「連絡会」の目的は、現行の健康保険証の存続を実現するための1点共闘。

加入の条件は、目的に賛同する団体で、すでに、20団体が参加。

事務局団体は、保険医協会、民医連。神奈川労連、建設労連、自治労連、社保協の6団体。

運動の期間は、2024年9月までとし、2024年秋に予定されている保険証の廃止を阻止するまで。

今後の取組みとして、学習活動や宣伝・署名活動にとりくみます。

そして、国会・県・自治体に「なくすな保険証」の要請行動や、陳情、請願を行っていきます。

質疑では、川崎市の社保協の光野さんが発言。

「川崎では、6月から7つの区で、駅頭を中心に宣伝行動を続けてきた。6月は95名、7月は85名もの参加があった。

そして、9月市議会に国への意見書を提出するように求める請願を提出する準備を進めている。

現在まで、62団体の賛同を得ている。引き続き、学習と宣伝に取りくんでいく。」

「なくすな！保険証」が、秋の市民大運動の大きな柱に

今や、保険証の存続の意見が、大きな世論となっています。マスコミも、政府よりと見られている読売新聞や産経新聞も含めて、「見直し」「存続」の一色です。

この世論の変化を作り出したのは、市民運動の成果なのです。県連絡会の結成を飛躍台として、川崎でも「なくすな保健証」の秋の大運動を進めていきましょう。

■教員不足の解消を求める請願は継続審議に

～新たな運動へのスタート～

「教員不足の解消で子どもたちが安心して学べることを求める請願」の審議が、8月30日に市議会文教委員会で行われました。

この請願は、昨年12月15日に11447名の賛同を得て提出したのに、議会局のミスで審議未了廃案となりました。

しかし、私たちは「廃案は認められない」と6月に再提出し、8月30日にやっと審議の俎上にのせることができました。

そして、「採択」にはならなかったものの、解決方向を引き続き検討していくことで「継続審議」となりました。これは、大きな一歩です。

川崎の学校では、今年2月の学期末に137名の先生が不足するという驚くべき事態がおきました。そして、今年4月は、新たな採用者を入れても、約60名の先生が不足のスタートとなりました。

この実態を明らかにすることから審議が始まりました。

そして、公明、共産、みらい、維新、無所属の議員から、教員不足と長時間労働の問題を多様な角度から掘り下げる質疑が行われました。

質疑の中で、教育長が「教員未補充の解決は、喫緊の課題」と発言をしたときは、心の中で「その通り！市教委がんばれ！」と激励の拍手を送りました。

その割には、市教委担当者たちの答弁は、これまでとあまり変わらないのに呆れる場面もありました。

けれど、もう一方では、「昨年12月からずいぶんと待たされたけれど、やっと川崎市議会が教員不足問題の解決に向かってスタートしてくれた。

次は、私たちの運動をさらに大きくしていく番だ！」と、いっそう頑張る元気が出ました。

私たちは、9月10日に、この継続審議の結果を踏まえて、「教員不足の解消と少人数学級の川崎市独自の拡充」を求める新たな署名運動をスタートします。

※9月10日(日)10時から12時 高津市民館第4会議室

以下、私の傍聴筆記メモから印象に残った意見を紹介します。

- ・教員が1名不補充になることで、きめ細やかな指導ができなくなる。子どもたちの権利が守られていないことになり、子どもたちへの影響は大きい。

- ・年度初めから正規教職員以外に、200名を超える臨時の教職員を任用していることで、年度途中の産休育休や病気休職になった先生の代わりに臨時で働いてくれる方がいなくなっている。

昨年度末は、そのために、137名もの大量の未補充が起きた。正規教職員をきちんと採用すべきだ。

・市教委は、将来子どもの人数が減少し正規教職員が余剰になると困るから、臨時教職員を一気に減らせないというが、従来通りの対策では、今の子どもたちの学ぶ権利を守ることはできない。

方針を再検討し、不補充を出さない新たな取り組みが必要だ。

・教員不足の原因を教員の成り手が全国的に減っているからと市教委は言うが、川崎市独自の原因はないのか、川崎市の責任はないのか。

例えば、政令市の離職率で比べると川崎市はどうなのか。もっと多様な視点から他都市との比較をして、初めて真剣な検討ができる。

傍聴の記録 市古ひろかず

▲ お知らせコーナー

☆ゆきとどいた教育をすすめる川崎市民のつどい

ー2023年度 教育署名スタート集会ー

9/10(日)10時～12時

高津市民館 11F 第4会議室

お話「なぜ、先生にゆとりが必要なのか」

報告と提案、フリートークなど。

連絡先 川崎市教職員連絡会

電話/FAX 044-433-1413

☆ゆめシネマ「オレの記念日」-桜井昌司追悼-

9/2(土)3時⑨ ② 12時 ③ 15時

①と②のみ監督アフタートークあり。

布川事件で冤罪判決を受け、再審を実現し勝ち抜いた被告の軌跡。

8/23に亡くなられてちょうど1ヶ月となります。

「冤罪」は何故生まれるのか考えたい。

申込み・問合せ

044-433-3003 かわさきゆめホール

cinema@kawasakiyume.com

★ 編集後記

劣化ウラン弾の使用がウクライナの地で西側諸国の武器供与という形で加速しています。

劣化ウラン弾は核兵器ではありません。

核爆発によるダメージを目的とはせず、原発の廃棄物として生じる劣化ウランを弾頭に用いることで、破壊力を高めたものです。

破壊力が高まるのは、劣化ウランが鉄の倍くらい重く、しかも硬いため、戦車の厚い装甲を貫通することができます。

問題は、劣化ウランが放射性廃棄物であり、放射能を持っていることです。

この放射能による健康被害はすでに様々な形で報告されています。

チェルノブイリで被爆体験をしたウクライナの人々が、再び劣化ウラン弾で放射能にさらされています。

「戦争に勝つ」ことが人の命より重いとは私には思えません。

スペースシップ・アースは、国内外の SDG's のお役立ち情報・ニュースや SDGs に取り組んでいる個人や企業、

サービス紹介に取り組む SDGs ポータルサイトで、客観的な情報を提供しています。

このサイトで、劣化ウラン弾を詳しく解説しています。

以下ご参考まで。(Y)

[スペースシップアース・劣化ウラン弾とは](#)

☆☆**チェンジかわさき!**☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

[公式ホームページ](#)

☆☆**チェンジかわさき!**☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/9WUDRILBzXyg?mail=akagixxx%40yahoo.co.jp

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。配信を再開します。

mailmag@newkawasaki.jp